

第一回徳地アドベンチャー教育プログラム（TAP）研修会

令和4年6月25日（土）～26日（日）

体験の風を
おこそう

【目 的】

「徳地アドベンチャー教育プログラム」（以下、TAP）の体験を通して、その教育効果を体感するとともに理念や手法を理解する。また、集団の力を借りながらコミュニケーションの楽しさや手段を学んでいくことで、人間関係の育み方を知る。

【参加者】11名（男7名 女4名）

【プログラムの内容】

1日目

10:00 開講式、オリエンテーション

10:30 セッション①「アイスブレイク等」

13:00 セッション②「イニシアチブ・ローエレメント等」

18:30 セッション③「Being」

2日目

9:00 セッション④「ハイレメント」

13:00 セッション⑤「理論・Being・ふりかえり」

14:50 閉講式

セッション①



参加者の経験値に差があったが、知っているアクティビティが出るたびに顔がほころぶ参加者も多く、その雰囲気が徐々に広がり、チャレンジしやすい雰囲気が出来上がっていた。

セッション②



午後からは、コミュニケーションを必要とするアクティビティやローエレメントを体験した。グループとしての高まりを感じられた。

セッション③



夜は、コミュニケーションをとるアクティビティを中心にを行い、その後、グループの状態を言語化するために、「being」の作成を行った。参加者は自分が何を思い何を考えこの1日を過ごしてきたか、そして自分やグループがどのように関わってきたかを、開示しあっていた。

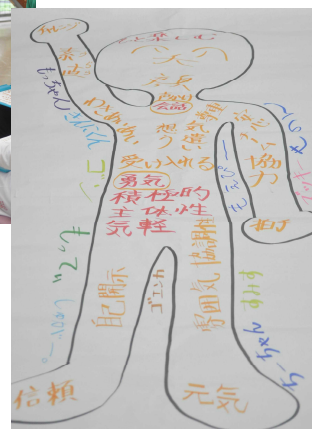
その後、翌日のチャレンジに向けて個々人がどのように参加していくかを決めた。

セッション④



2日目はハイレメント及びトラストを行った。お互いを信頼しながら自分と向き合う時間となった。参加者同士の多くの声掛けが聞こえ、フィールドはとてもいい雰囲気につつまれた。

セッション⑤



2日間の体験のふりかえりを行った。その後、グループとして、個人として成長を促すTAPを構成する考え方やアクティビティの提供についてのまとめを行った。

【参加者の声】

- ・グループを成長させるための、グループの見取り方を知りたいと思った。
- ・もっといろんな活動をしたかった。あと1日ほしかったです。
- ・以前に別のところで聞いたことだったが、質問に答えてもらえて理解することができた。
- ・研修会のすべてがとても楽しく学ぶことができるようになっていた。
- ・ファシリテーターがどんなことを思って組み立てていたのかもっと学びたいと思った。

【成果と課題】

今回は参加者の中に教員や大学の先生がおられ、様々な分野に使うことのできるものを提供できていると感じた。言い換えれば適切な広報を行えば、さらに参加者を増やすことも可能なのではないかと考える。

新型コロナウイルス感染症の影響で、今まで通りのアクティビティの展開が難しくなっている。そんな中で、いかに参加者に安心して参加してもらうか。広報の時点からその部分が分かりやすい状態を作り上げる必要があると感じた。